



東日本大震災・支援対策本部ニュース

—届けようワイズの心—

あの日から1か月半が経ちました。まだ行方がわからない方々も多数いらっしゃり、瓦礫の地と化したままの街も数多く残っています。原発の問題も一層深刻化しています。そんな中で私たちワイズメンは一日でも早い復興、被災された方々の生活の安定を願って、それぞれがそのときどきに応じて出来る限りの支援を行っていきたいと思います。東日本区ではこれからも現地からの最新の情報に基づき、ニーズに応えたタイムリーな支援をご案内、実施していきます。

1. 支援物資について

- 東京 YMCA 妙高高原ロッジを集積基地として3月中に合計4回、全国のワイズから寄せられた物資を約400箱搬送し(既報)、4月1日には東京 YMCA 東陽町センターから、近隣のワイズが持ち寄った食料、長靴、スコップ、カセットボンベ、電動自転車等の支援物資の搬送が東京ひがしクラブのメンバーによって行われました。
- 4月21日には仙台 YMCA、盛岡 YMCA からの要請によって、発電機、高圧洗浄機、食料、文具等が横浜つづきクラブおよび東京グリーンクラブのメンバーによって届けられました。
- 盛岡 YMCA が宮古での被災者支援活動で必要としている軽トラックが富士クラブメンバーから提供され、4月24日に900キロの距離を陸送されました。大いに活用されています。
- 現在、ワイズメンの皆さまには以下の品物のご提供をお願いしています。



- 食料(生米は不要。日持ちするもの(野菜を含め)、未開封。缶詰歓迎)
- ごみ袋(大きいサイズ、透明)
- ゴム手袋
- 長靴(24センチから27センチ。程度が良ければ使用済みでも可)
- バケツ(材質は問わない)

<送付先>

以下に直接お送り下さい。

〒980-0822 宮城県仙台市青葉区立町9-7

仙台 YMCA TEL:022-222-7533

<注意事項>

- ・クラブ等でまとめて送られる場合は品目ごとに別の段ボール箱に入れて送っていただくと現地での仕分けの手間が省けます。
- ・個人で送られる場合はひとつの段ボール箱に詰め合わせていただけて結構です。
- ・送り状に、内容物の概要と「ワイズ支

援物資」と記載して下さい。

- 提供希望物資等の最新の情報は「ワイズドットコム」のメールでお知らせするとともに、東日本区ウェブサイトの「News」の項に掲載しています。

<http://www.ys-east.or.jp/news/news.htm>

2. 支援募金について

- 多くの支援募金が各クラブ、個人の皆さまから寄せられています。ありがとうございます。
- 4月21日現在で、東日本区には以下の金額が届いています。(YMCA 同盟や各地の YMCA への献金は含まれていません)

<総計>7,253,894円

<内訳>

東日本区内クラブ、部、個人：1,825,714円
海外：5,428,180円

(内台湾区：3,872,200円)

- 支援募金は日本 YMCA 同盟を通じて仙台、盛岡 YMCA の被災者支援活動に捧げられる他、電動自転車、発電機、高圧洗浄機等の支援物資の購入、現地のワイズの支援活動資金にも用いられています。
- 各地にて YMCA と協働で、クラブ独自



うに近隣のクラブが共同で街頭募金が行われています。また、関東東部、東新部では評議

会開催前に出席者により街頭募金が行われました。4月9日に開催された第3回東日本区役員会においても街頭募金を行いました。



- これから街頭募金を行われるクラブで横断幕、募金箱、チラシ等がご入用の場合は

東日本区事務所にご照会下さい。

- ワイズメンズクラブ国際協会では Gambare Nippon! プロジェクトとして全世界のワイズに支援募金を呼び掛けています。4月18日現在で献金額は81,751ドル(約670万円)に達しています。(東日本区口座既入金額と一部重複しています。)

3. 松田理事仙台訪問

4月2日(土)、松田東日本区理事および仁科西日本区理事が仙台を訪ね、仙台 YMCA スタッフ、在仙台ワイズと情報交換し、被災地の視察も行いました。在仙台3クラブには支援活動費用として15万円を贈呈いたしました。(もりおかクラブには4月21日の支援物資搬送の際、10万円を贈呈いたしました。)

4. YMCA の被災地支援活動について

<仙台 YMCA>

仙台 YMCA 内に「仙台 YMCA ボランティア支援センター」を開設し、仙台市周辺(若林区、宮城野区など)、東松島、多賀城、南三陸町などへの支援活動を継続して行っています。仙台 YMCA のサッカークラブのメンバー、リーダーもボランティア活動に加わっています。

<盛岡 YMCA>

日本基督教団・宮古教会内に「盛岡 YMCA 宮古ボランティアセンター」を開設し、全国の YMCA スタッフ、登山家グループにより宮古にて家屋の片付け、汚泥の撤去等の支援活動を行っています。4月中旬からは、岩手大学との連携で、盛岡からの日帰りボランティアとしてグループ活動を進めています。

<その他の YMCA>

各地の YMCA では、避難者の受け入れ支援活動、独自に特定被災地へのディレクター、ボランティアの派遣活動等を行っています。例えば東京 YMCA は石巻ボランティアワークキャンプを実施中です。各 YMCA のウェブサイトをご覧ください。

また、日本 YMCA 同盟・東山荘では被災者受け入れプランを設定し、特に5月5日から7月15日は100名体制で受け入れられるよう準備しています。

5. 仙台地区ワイズメンズクラブの取組み

仙台地区のワイズメンズクラブである仙台クラブ、仙台青葉城クラブそして3月21日に設立総会が行われ、5月15日にチャーターナイトを迎える仙台広瀬川クラブの3クラブは4月8日に「仙台地区ワイズメンズクラブ震災復興支援合同会議」を発足させ、仙台 YMCA の被災地支援活動に協力しています。

6. 各地のワイズメンズクラブの取組み

各クラブでは被災地支援に関して様々な取り組みを行っています。例えば・・・

- 東京山手クラブ、甲府クラブでは年度内

の例会を TOF 例会にし、食費を支援金としています。

- 東京山手クラブは例会時間も短縮し、節電に協力しています。
- 十勝クラブでは通常の支援物資の他に特産のジャガイモ 200 kg、タマネギ 50 kgを送りました。
- 東京江東クラブでは被害が大きかった千葉県旭市の瓦礫撤去ボランティア活動を行い、また、クラブ内に縁者がいる南三陸町へ独自に支援物資を提供しています。



(各クラブでの取組みをご紹介下さい。次号に掲載いたします。)

7. 国際協会・ユースの取組み

国際協会ではジュネーブの国際本部でユースインターンを務めている橋崎真美さんを中心にユースとしての支援活動を展開しています。これまで、日本の多くのワイズも加わった祈りの日(3月18日と4月11日に実施。これからも毎月11日に実施予定)を企画してくれましたが、現在、世界中のユースに日本に向けてのメッセージを投稿するプロジェクトが進行中です。以下のウェブサイト(日本語版です)をご覧ください。

<http://ysyouthprayersforjapan.webs.com/japanese.htm>

<ハチドリの一としずく>

森が燃えていました。森の生きものたちはわれ先にと逃げていきました
でもクリキンディという名のハチドリだけは
いったりきたりくちばしで水のしずくを一滴
ずつ運んでは火の上に落としていきます。
動物たちがそれを見て「そんなことをして
いったい何になるんだ」といって笑います。
クリキンディはこう答えました。
「私は、私にできることをしているだけ」
『ハチドリの一としずく』(辻信一監修、光文社)

私たちは、ひとりひとは一羽のハチドリかも知れませんが、一羽きりではありません。1,200羽(東日本区)の、3,000羽(日本)のそして30,000羽(世界)のハチドリが心と力を合わせれば・・・さらに他の動物たちにも呼びかければ・・・
(H.T)

ワイズメンズクラブ国際協会東日本区 東日本大震災・支援対策本部

本部長：松田理事

本部統括：田中書記

メンバー：河合次期理事、原直前理事、
佐藤会計、小原地域奉仕事業委員長、
鈴木事務所長、林事務所副所長、
清水元理事